

東京都北区中里貝塚 保存活用計画策定委員会 第6回会議 議事要旨

日時：平成30年11月30日（金）13:00～14:45

場所：北区飛鳥山博物館 講堂

【出席者】

<委員>

阿部 芳郎 委員長 石川 日出志 副委員長
吉村 晶子 委員 松本 晴光 委員（代理出席：議波壽男）
山田 和夫 委員 堀江 正郎 委員
佐々木 富美子 委員

<オブザーバー>

野木 雄大 文化庁文化財第二課史跡部門 文部科学技官
伊藤 敏行 東京都教育庁地域教育支援部管理課統括課長代理

<区関係理事者>

丸本 都市計画課長 岩本 土木政策課長
佐野 道路公園課長

<事務局>

野尻 飛鳥山博物館長 鈴木 事業係長
中島 学芸員 牛山 学芸員 安武 学芸員

【次第】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題
 - (1) 計画書構成案について
 - (2) 史跡の構成要素について
 - (3) 整備活用に関する方向性について
4. 報告
 - (1) 中里貝塚委員会だより（かわら版）の発行
 - (2) 地元勉強会等の報告
 - (3) ワークショップの予定（12/16）
5. その他
6. 閉会

【配付資料一覧】

1. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 第6回会議次第
2. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 席次表
3. 東京都北区中里貝塚保存活用計画策定委員会 委員名簿
4. 議事関係
 - 資料1 『中里貝塚 保存活用計画書』の目次構成案と各回の委員会の主な検討箇所
 - 資料2 中里貝塚の構成要素の整理
 - 資料3 整備活用の検討
 - 資料4 国史跡中里貝塚保存活用計画策定委員会 かわら版 第2号
 - 資料5 国史跡中里貝塚保存活用計画策定委員会 かわら版 増刊号
 - 資料6 国史跡中里貝塚保存活用計画策定委員会 かわら版 増刊号

【傍聴人】

傍聴人 4 名

【議事要旨】

1. 開会
2. 教育委員会挨拶
3. 議題

<議題（1）計画書構成案について>

○事務局 一資料説明一

<議題（2）史跡の構成要素について>

○事務局 一資料説明一

<議題（3）整備活用に関する方向性について>

○事務局 一資料説明一

○委員長

2ヶ所の史跡指定地について、西側の史跡広場は約4,000㎡、東側の2丁目広場は約2,000㎡あるが、それぞれ同等の整備を図るのが良いか、それとも広い面積の史跡広場を重点的に整備するのが良いか、ご検討いただきたい。

○委員

2丁目広場は、隣接する幼稚園の子ども達の送迎や遊び場として利用されているので、整備する場合には幼稚園側とも調整したほうが良い。

○委員

今回の史跡整備の「本当の目的」が何なのか、示してほしい。観光のため、地域に人を呼ぶためなど、はっきりとした目的を示して、それに対して目標を立てる、という流れだと分かりやすい。

○委員

都市計画の観点から考えると、何らかの施設整備をする場合には、人が来るのを受け止めるための観光インフラなど、「来訪者の存在」も合わせて検討する必要がある。また、いわゆる展示型の施設のほかに、「当時の生活そのものを追体験する」という活用の仕方もあるので、そのための機能を施設に持たせるなど、ハード面とソフト面の整備を計画段階でしっかりと検討する必要がある。

○委員

中里貝塚の現地に何らかの施設は必要だと思うが、徒歩圏内に飛鳥山博物館もあるので、「展示は博物館で」、「体験は現地で」というように機能分化すると良いと思う。

○委員長

敷地面積や動線を考慮すると、「史跡広場」のほうに軸足を置いて整備活用を進め、中里貝塚の価値を高めている4.5mの貝層と貝蒸し遺構が発見された「2丁目広場」のほうも、現状を上手く工夫して、現地でそれらの姿を体感してもらえるような補助的な整備を進めるという案はどうか。

○委員

現地に何もなくて、「地下にこれだけのものがありますよ」と言われても、一般の人は理解しにくいので、貝層の断面展示など、実物があると良い。

○委員長

大枠としては2ヶ所の史跡指定地を両方ともに整備をする。そして体験学習ができる施設の設置を史跡広場のほうを中心に検討し、2丁目広場のほうは現地で貝層と貝蒸し遺構を体感してもらえるような整備を検討する、という方向でどうか。

○委員

基本的な方向性はそれで良いと思う。ただ、2ヶ所を整備すると、そこを見学者が行き来し、「2ヶ所の指定地を繋げよう」という流れも出てくると思うので、現状のまちを守るという点にも配慮して検討を進めてほしい。

○委員

加曾利貝塚や上高津貝塚では、年間予算やボランティア体制など、「ヒトとカネ」の確保に苦労しているとのことだったので、中里貝塚の運営体制も、しっかりと検討してほしい。

○委員長

史跡広場のほうに、ガイダンス施設のような建物は設置可能か。

○オブザーバー

基本的には、史跡指定地内にはガイダンス施設は作らない。ただし、屋根のある東屋のようなものであれば、休憩もできるスペースということで作ることは可能。また、「現地に必要な機能」を持った施設であれば、しっかりとした建物も設置可能。

○委員長

2丁目広場のほうに、貝層の断面を地表に展示し、上屋を建てるというような整備は可能か。

○オブザーバー

遺構の保存が担保されれば、そういった整備も1つの手法だと思う。

○オブザーバー

施設設置を考える中で、史跡を理解してもらうためのメニューを検討しながら、東屋で十分なのか、ベンチもいるのか、といった具体的な検討に入る必要があると思う。

○委員長

ワーキンググループにて、もう少し具体的な活用構想を話し合い、次回の委員会にて提示して検討を進めたい。中里貝塚は国史跡ではあるが、この場を活用したいと思う人は「考古学が好きな人」だけではないので、例えば「北区と東京湾」などのように、大きなテーマの中で活用を図ると良いと思う。

○委員

中里貝塚の将来を考える上では、次の世代を担っていく人達の参画が欠かせないと思うので、12月16日のワークショップでは、子育て世代の方達にも参加いただけるようにしてほしい。

○委員

中里貝塚を通じて、体験的に誇りを持てる地域の姿を見せられるようにしてほしい。また、飛鳥山博物館を上手く活用しながら、中里貝塚の周囲に点在する史跡等と関連づけて、世間にアピールしてほしい。

○副委員長

史跡の利用者は90%近くが地元の方達なので、史跡の存在を日常の中で感じることでできるような整備活用を考えるべきではないかと思う。また、「知る」から「感じる」企画をいくつか作って、何年かごとに内容をリニューアルしながら、ソフトの部分を中心とした活用計画を考えるのが良いと思う。

○委員

大規模な整備をしないで、地元的生活空間を大切にしている事例として、滋賀県の「針江・生水」が

ある。ガイドの方の案内がなければ中の見学ができない仕組みになっており、過度な来訪が発生しないようになっている。

○委員長

ワーキンググループにて、「中里貝塚で何をしたいのか」という点をしっかりと話し合い、次回の委員会で継続審議ということをお願いしたい。

○委員長

整備事業のスケジュールについて、計画策定からあまり時間をおかずに、できる範囲から整備に着手するというイメージで大丈夫か。

○オブザーバー

保存活用計画で現状と課題を整理し、その課題に対して、短期的には喫緊の課題を解決していき、中長期的には今後の整備活用の方向性を実現できるようなことを進めていく、という流れが一般的。スケジュールについても、「何をやって、どの部分を短期に位置づけるか」という点をもう少し整理してほしい。

4. 報告

<報告（1）中里貝塚委員会だより（かわら版）の発行>

○事務局 一資料説明一

○副委員長

かわら版の発行は、おもしろい取り組みで、とても良いツールなので、外部の人や関心のある人が見られるようにしてほしい。

<報告（2）地元勉強会等の報告>

○事務局 一資料説明一

<報告（3）ワークショップの予定（12／16）>

○事務局 一資料説明一

5. その他

※事務局から、次回委員会の日程について説明。

6. 閉会

以上